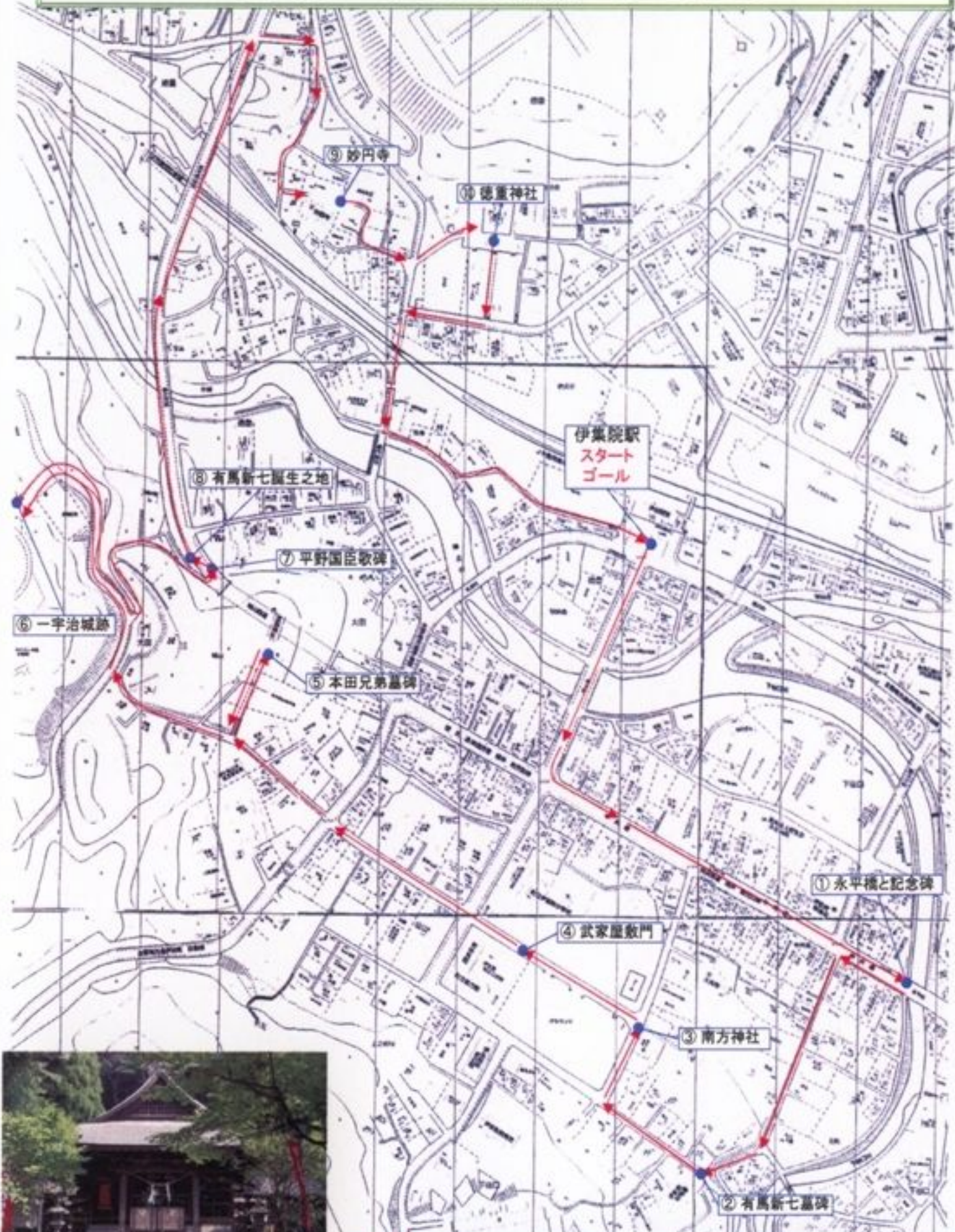


まち歩きコース
～島津義弘と幕末明治維新の志士を巡る～



⑩ 徳重神社
祭神は「精矛巖建男命(島津義弘)」で、廃仏毀釈によって菩提寺妙円寺が壊された後、明治4(1871)年に、妙円寺の本堂を神殿として建立されました。御神体は、島津義弘の木造です。

★まち歩きルート

JR伊集院駅	永平橋と記念碑	有馬新七墓碑	南方神社	武家屋敷門	本田兄弟墓碑	一字治城跡	平野国臣歌碑	有馬新七誕生之地	妙円寺	徳重神社	JR伊集院駅
0分	2分	5分	2分	1分	7分	5分	7分	1分	7分	1分	8分



① 永平橋と記念碑
下谷口川に架かるこの橋は、長さ12間の土橋であったが、嘉永3(1850)年11月29日に着工、翌年1月20日に竣工した石造眼鏡橋でした。記念碑の文字は、西郷南洲が筆を振ったと伝えられています。



② 有馬新七墓碑
有馬新七は吉田松陰、真木和泉と並ぶ、明治維新の原動力となった志士です。文久2(1862)年4月、寺田屋事件で同じ薩摩藩士らとの斬りあいの末、絶死をとげました。墓は南林寺墓地撤去により、現在地に移されています。



③ 南方神社
一字治城を護るために、宝徳2(1450)年に城の大手門の真向かいに神社が建てられました。伊集院五社の筆頭で足利時代の頃には六十町歩にも及ぶ田畑が日置郡内から寄進されています。



④ 武家屋敷門
この門は旧伊集院地頭仮屋の門で、明治元(1868)年伊集院小学校が、地頭仮屋跡に設立された時、小学校の門として使用された後、一時個人の所有となりましたが、昭和60年6月町へ寄贈されています。



⑤ 本田兄弟墓碑
戊辰の役に若くして散った本田親正・親直兄弟の墓で兄弟の父と親交があり、かつ兄弟を可愛がっていた西郷南洲が明治2(1869)年に建立したものです。碑面には、翁の直筆で招魂文が刻まれています。



⑥ 一字治城跡
鎌倉時代の初め、紀氏が館を構えたといわれ、その後に伊集院氏が住んだと考えられています。島津家15代当主貴久は、ここを三州守護職島津家第15代太守の本城と定めています。



⑦ 平野国臣歌碑
「我胸の燃ゆる思ひに くらふれば 煙はうすし 桜島山」幕末の勤皇の志士平野国臣が詠んだ名歌です。島津久光に倒幕を勧めようと、同志有馬新七の協力を得るため、伊集院に滞在したが倒幕への決起にはならず、国臣が涙をのんで伊集院を去ろうとする時に詠まれました。



⑧ 有馬新七誕生之地 記念碑
有馬新七は伊集院町小城集落の坂木家に、坂木貞常の三男として文政8(1825)年に生まれ、文政10(1827)年8月、鹿児島城下の御子姓組有馬与之介の跡を相続することになり、鹿児島に移住しています。



⑨ 妙円寺
興国6(1345)年石屋真梁和尚が開いたものです。妙円寺という名については、今の山口・広島県の守護であった大内義弘の娘の法名「法智妙円大姉」とったものです。